

国際シンポジウム 9/26 PM

「認知症高齢者にやさしいまちづくり～その実践と、 アートを活用した支援にみる可能性～」

認知症高齢者の尊厳を守り、生きがいを高めるため、特に芸術文化活動を通じて先駆的な支援をすすめている英国から講師を招き学びつつ、日本における支援とまちづくりのあり方について考察します。



- 日時 : 9月26日 (木) PM ● 参加費 : 1,000円
- 講師 : Maria Parson マリア・パーソンズ氏 /
Creative Dementia Arts Network 理事
杉山 美香氏 / 東京都健康長寿医療センター
- チューター : 塚田 典子氏 / 日本大学商学部教授、
一般財団法人保健福祉広報協会理事

明日が楽しみ

— 参加型アートを用いた介護施設入所者の健康・福祉向上 —

マリア・パシェチュクニ・パーソンズ Creative Dementia Arts Network 理事

英国の介護施設には41万人の高齢者が暮らしておりそのうち70%が認知症。参加型アートや文化活動の効果が科学的に証明されているため、政府の施策として介護施設でアートを実践している。

介護施設に入り自由が狭められ、世話をされる側になってもまず人として見てほしい!

そんな思いをかなえるアートの力を学ぶことができました。日本の介護福祉現場にも広がることを願っています。

参加型アート

アート&クラフト、アプリ、VR、写真

音楽、歌唱

ダンス、運動

ドラマ(演劇)

リーディング、ライティング

音楽は良薬!

人生のプレイリストを作ろう

自分の好きな10曲を選んでUSBに入れたもの。

重度の認知症で介護施設に入り全く反応を示さなくなった夫、妻がプレイリストを作り一緒に聞くようになると夫は言葉を取り戻し妻と昔の思い出を語り合うようになる。

「この曲で一緒に踊ったよね」

「そうだねー」

妻と気持ちの交流ができるようになり、微笑みが戻り、おかげで薬の量も減った。

自分の人生を取り戻してくれたアート効果の一例でした。

アート:介護実践への教訓

- ・私をもっとよく見て。私の経歴や関心、嗜好を知ってほしい。
- ・私はずっと生きいきと暮らせるようにしてほしい。
- ・私の自律性を尊重する選択肢を提供してほしい。
- ・私が覚えている記憶を呼び覚ましてほしい。
- ・不安や動揺、気分の落ち込みを和らげるアクティビティを提供してほしい。
- ・社交の機会を与えてほしい。
- ・言葉が通用しないとき、あらゆる感覚を使って思いや気持ちを伝えられるようにしてほしい。
- ・明日が楽しみになる何か、生きる価値があると思わせてくれる喜びや楽しみを与えてほしい。
- ・ **アートを提供してほしい!**

重度の認知症になっても、言葉で表現できない障害があっても人としての尊厳を持って明日を楽しみに生きいき生きていける、そんな社会の実現を目指す私たちにとってアートは大きな力になると実感しました。

「高嶋平ココからステーションの取り組み」

東京都健康長寿医療センター自立促進と精神保健研究チーム 杉山美香

大都市においても「認知症と共に暮せる地域社会」を創出するためのモデルを考案するための研究事業として東京都からの助成を受け実施。

- ①認知症や障害の有無にかかわらず「**みんなが居心地よく、だれでも自由に**」過ごすことができる居場所。
- ②音楽や芸術、落語、囲碁など文化的な活動は、
**認知症であってもそうでなくても、自由な感性で、
平等にお互いがつながり合える**きっかけとなる。
同じ時間・場所を共有することができる。

☆誰でも利用できる居場所が本当に必要な方に
参加していただくことにつながっていました。

<https://www.facebook.com/t.cocokara.st/>

